

当別文芸の会だより No.36

H25・3/24 発行 (連絡先・河地良一 TEL23-2103)

3月の読書会は北杜夫の作品でした

「当別文芸の会」も発足して3年目、平成24年度の最終回となる読書会は、3月16日(土)13:30から白樺コミセンで開催され、13名の同人(メンバー)が参加されました。当日は雪解けが一気に進んだ駐車場も、わだちがいっぱいでしたが、帰りは何と吹雪に。それでも春近しの予感も。

今回の読書会は大澤勉さんの司会進行で、「どくとるマンボウ航海記」で知られている北杜夫の短編「遥かな国 遠い国」を取り上げました。北洋の領海を侵してソビエト船に拿捕される船員、濃霧のなかでの操業などが、北杜夫のユーモアタッチで描かれた作品でした。

精神科医から作家になった北杜夫は、そう、うつ状態の中で、数多くの作品を書いています。彼の作品をどう理解するかについては、皆さんからも、いろいろな意見が出ました。また、参加された皆さんの日頃の読書傾向についても交流ができ、次年度もいろいろな作品への挑戦が楽しみです。

本庄陸男の「石狩川」を深読みする会

4月15日(月)から10回シリーズ(8月、1月を除く)で始まります。会場は当別町福祉センター(田西会館西側)で13:30~16:00の時間帯です。

年会費は1,000円(通信費ほか)。飲み物は各自持参。取り扱う本は「石狩川」(新日本出版社、2,520円)で、町内の十字屋書店でお求めください。

町民の方も参加自由で、申込みは堀江さん(携帯090-2054-7457)へ。

4月の「当別文芸の会」ご案内

4年目の「当別文芸の会」は、4月20日(土)13:30~16:00がスタートです。会場はこれまでと同様、白樺コミセンです。

内容は総会(事業・会計報告、計画・予算案、世話人等選出)の後、文芸交流として「北海道の地域性を語る」のテーマで、同人(メンバー)の自由な発言を通して、お互いをもっと知り合う機会にしたいと思います。

第二部は、会場を変えて、「親睦交流の集い」を考えましたので、振るってご参加お待ち申し上げます(別紙案内)。

〈会場〉 「紙ひこうき」(元町 TEL23-4005) 町浄水場のそばです。

〈時間〉 16:30~(2時間程度) *移動は各自

〈会費〉 3,000円(樽生ビール、オードブル、ピザ、パスタほか)

〈申込み〉 竹原さん(携帯090-2690-2411)へ 4月10日まで